

社団法人

俳人協会報

1972年

5月

No. 43

社団法人 俳人協会第一回通常総会

(昭和四十六年度通常総会)

昭和四十六年度通常総会(従来は定時総会と称した)は、三月二十五日(土)東京大神宮会館において開催された。社団法人俳人協会となつて初めての通常総会である。

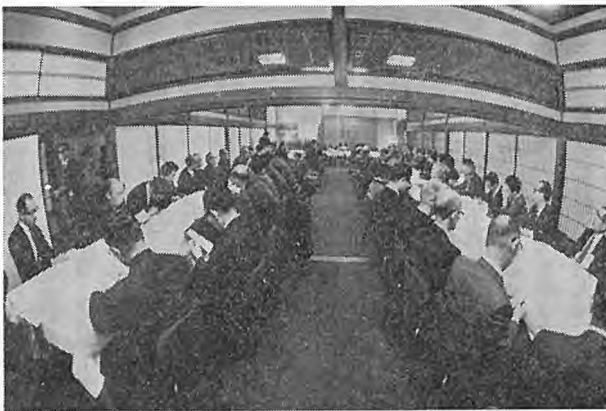
会場は旧館二階、照明の加減にも何か莊重さの漂うような大広間。受付には早々と菅浦あや、山田みづえ、佐野美智、樋笠文、尾形不二子の皆さんが記帳や記名リボンのお世話をして下さっている。

午後一時三十分、岡田日郎幹事の司会のもと。福田蓼汀理事の開会の辞。つづいて榎田進幹事より総会成立の報告があった。正会員総数一、一八二名。本日出席者二一九名。委任状によるもの八一三名。

定款に定めるところにより水原秋桜子会長が先ず議長席についたが、たまたま風邪気味の故をもって議長役を大野林火副会長に委任される。大野副会長が会長に代つて議長席につき、さっそく議事に入る。

第一号議案「昭和四十六年度決算および事業報告」については秋元不死男理事から別掲のように詳細な事業報告があり、松崎鉄之介理事からは、予め配布のプリントによつて決算報告(別掲)を行なった。質疑は次の第二号議案と併せて行なうこととし**第二号議案**「昭和四十七年度予算および事業計画」についてはこれまた阿氏から詳細にわたる説明(別掲)があった。

続いて五所平之助監事から、決算内容確認の監査報告があつた後、質疑に移つたが、特に質問はなく、全員賛成で、両議案ともそれぞれ承認、可決された。なお、先に述べられた事業計画のうち俳句資料センター設置について五所氏から発



言があり、氏の関係する映画界におけるフィルムセンターの実情を例に、資料センター設置促進を強く要望された。

第三号議案「定款の一部変更について」は、岸風三樓理事から、定款第二条の事務所の所在地変更について説明があり、一同諒承。さらに同理事の説明による**第四号議案**「顧問委嘱および名誉会員の推薦」(現在の顧問五氏に加えて中村草田男氏を顧問に委嘱、阿部みどり女、河野静雲、後藤夜半、中村汀女、星野立子の各氏を名誉会員に推薦、さらに、顧問は名誉会員であることの確認)については満場拍手をもつて賛成。

第五号議案「役員選任について」に移り、議長から新理事選出についてはかつたところ、議長一任の声あり、ここにおいて新理事十四名(別掲)を選任して少憩に入った。その間、別室において新理事の互選により会長、副会長、理事長および常務理事が別掲のように選出された。

少憩後、新役員の発表に続き中村草田男氏の顧問就任の挨拶があつて、ここに予定された議事は滞りなく終了した。

最後に水原会長の挨拶は特に事業計画のことに及び「思いおこすことだが、大正、昭和のはじめ、私の勉強がかりの時には、歌壇には優秀な作者があり、いい仕事をした。作歌のみならず研究、考証、評論の面にも力を入れてやった。俳壇はそうではなかった。その後有能な作

家が輩出したが、作者自身、研究・評論を書いたりする人がまだ揃わない。歌壇におけるごとく、いつでも研究しようとするは、なし得る態勢によって、それははじめて可能である。身近く役立つような資料の収集整備がなされること、これは非常に大きな仕事でその意味でも「俳句資料センター」の設立計画は意義深いことであると思う」と述べられ、また、俳人協会はこれを成しとげるであろうと結ばれた。

安住敦新理事長の閉会の辞をもって總會を終り、ひきつづいて俳人協会賞授賞式に移った。

○第十一回俳人協会賞授賞式

既報の通り今回の受賞は岡本陣氏である。大場美夜子氏から花束贈呈あり、授賞後水原会長から親しみに満ちたことが送られる。「岡本陣さんは一昨年、真間の風生句碑除幕式のととき琴唱合唱の指揮をした。次は市川懇親吟行会の際最高点だったのでよく憶えている。以来いい作者だなあと注目していた。陣さんの句は題材の受け入れ方が特別柔かく、そして新しい。いい素質がこれからどう花開くか。作者の感受性を俳句にどう生かすか、たのしみである」これに心えて陣氏は「俳人協会での私の行動範囲は受付とまきまっていた、こうして晴れの高いところに立とうとは夢にも思わなかった。私は今後ともやはり使い馴れたことばで心

をこめて作句して行きたい」との簡にして心きいた挨拶ぶりに全員拍手をもって祝福、授賞式が終了したのは三時三十分だった。

(木村蕪城)

○社団法人俳人協会設立記念祝賀会

總會および協会賞授賞式終了後、新館三階広間に移り記念祝賀会を開催した。従来の總會後の会員懇親パーティと異なり、今回は、社団法人俳人協会の設立を記念する祝賀会とあって、来賓をお招きしての賑々しいパーティとなった。総務担当の轡田幹事司会により午後四時半開

会。まず、法人化に当って多大の御高配をいただいた文部省の村山事務次官に温かい祝辞をいただいた。次いで井本農一教授の祝辞、富安顧問の音頭により乾杯、とすんだが、水原会長はじめ祝杯を交す会員諸氏の明るい笑顔は常にも増して晴やかであった。少し遅れて来会された山本健吉、荒垣秀雄両先生のユーモアあふれる祝辞をいただいたころは、なごやかな雰囲気は一段と高まり、交歓風景はいっ果てるとも知れない程だったが、三溝沙美評議員の音頭による万才三唱をもつて午後七時過ぎ一応閉会とした。

(轡田)

○評議員懇談会

總會に先立ち、当日午前十二時半から、同じく大神宮会館二階会議室において恒例の評議員懇談会を開催し、總會議案の

説明と意見交換を行なった。

出席者。(評議員) 大竹孤悠、京極杜藻、細木芒角星、三宅一鳴。(理事) 大野杯火、秋元不死男、安住敦、角川源義、岸風三樓、松崎鉄之介。(監事) 五所平之助。(幹事) 岡田日郎、木村蕪城、轡田進、成瀬桜桃子、林翔、原裕、米沢吾亦紅。

○總會出席者名簿

水原秋桜子(馬酔木)、富安風生(若葉)、中村草田男(萬緑)、荒井正隆(浜)、安住敦(春燈)、有賀辰見(夏草)、青柳志解樹(鹿火屋)、秋元不死男(水海)、秋山夏樹(鶴)、藍不二子(菜殼火)、東早苗(七彩)、池田秀水(若葉、石塚まさき)(水明)、稲垣きくの(春燈)、白田九星(かまつか)、上田五千石(水海)、有働亨(馬酔木)、大木格次郎(笛)、小川奇東語(山火)、大竹孤悠(かびれ)、奥村迺午(鰯祭)、岡本陣(若葉、尾形不二子)(水海)、岡田日郎(山火)、大場美夜子(若葉)、大野林火(浜)、景山筍吉(草紅葉)、川村柳月(ちまき)、角川源義(河)、川瀬向子(桑の実)、櫻村安津女(俳句女園)、岸田雅魚(鶴)、岸部秋灯子(鰯祭)、木村蕪城(夏炬)、木内彰志(水海)、菊地麻風(麻)、岸風三樓(春樹)、京極杜藻(鹿火屋)、桑原月穂(河)、轡田進(若葉、久保紫雲郷(かびれ)、草間時彦(鶴)、久保田千湖(ぬかこ)、樽沼けい一(萬緑)、小松しげる(夏草)、五所平之助(春燈)、今棧一

(春光)、河野閑子(春燈)、佐藤春子(河)、貞弘衛(萬緑)、真光葉舟(かびれ)、沢木欣一(風)、佐野美智(浜)、三溝沙美(ホトトギス)、佐久間木耳郎(夏草)、茂恵一郎(雪解)、菖浦あや(若葉)、柴田白葉女(俳句女園)、推橋清翠(鹿火屋)、菅井富佐子(野火)、杉山岳陽(馬酔木)、鈴木富米(ちまき)、千賀静子(浜)、相馬蓬村(鰯祭)、鷹羽羽行(水海)、田鎖雷峰(夏炬)、竹馬規雄(萬緑)、角田独峰(ぬかこ)、新村寒花(若葉)、中火臣(若葉)、長倉閑山(春燈)、成田駿太郎(駒草)、成瀬桜桃子(春燈)、長峰竹芳(好日)、根本喜代子(俳句女園)、能村登四郎(沖)、野竹雨城(故郷)、原田種茅(河)、林翔(馬酔木)、原裕(鹿火屋)、長谷川浪々子(若葉)、花岡昭(萬緑)、羽村野石(鰯祭)、橋本夜又(雲母)、樋口玉蹊子(若葉)、樋笠文春燈、福田蓼汀(山火)、藤井晴子(野火)、福地愛翠(かびれ)、福永耕二(馬酔木)、細木芒角星(鰯祭)、星島野風(好日)、細見綾子(風)、細井みち(野火)、前野雅生(ぬかこ)、増成栗人(河)、升水砂光(かびれ)、松崎鉄之介(浜)、皆川盤水(風)、宮岡計次(風)、三宅心人駒草)、三野虚舟(夏草)、宮津昭彦(浜)、三宅隆(夏炬)、三浦青杉子(沖)、宮下翠舟(若葉)、村山古郷(鶴)、山田みづえ(鶴)、八木澤松樹(駒草)、山崎雅生(水海)、山畑祿郎(天狼)、吉岡富士洞(かまつか)、吉田巨蕪(鰯祭)、吉野義子(浜)、横溝美三(萬緑)、横山龍瓶(曲

水)吉井敬天子(駒草)、吉田鴻司(河)、米沢吾亦紅(燕巢)。以上二一九名

結社別出席者内訳

③若葉(7)春燈・浜(6)馬酔木・氷海・萬緑・鰯祭(5)夏草・かびれ・河・鶴(4)鹿火屋・

駒草・風(3)山火・俳句女園・ぬかこ・野火・夏炉(2)好日・かまつか・ちまき(1)雪解・麻・菜穀火・七彩・水明・笛・ホトトギス・曲水・春光・天狼・桑の実・故郷・雲母・沖・燕巢 (以上37結社)

昭和四十六年度事業報告

御承知のとおり、協会は昨年(四十六年)創立十周年を迎えました。御同慶に堪えません。

思えば、あつという間に過ぎた十年であり、また一つ茨の道を拓いてやっと基礎固めのできた十年と申してもいいような気も致すのであります。

ところで、協会と致しましては、この輝かしい十年目を迎え、更に意義あるものにしようということで、いろいろな事業を実施いたしました。以下項目別に報告申し上げます。

(一)、先ず十周年記念事業関係で御座いますが、その第一は、これまで任意団体でありました「俳人協会」が昨年十二月十七日、「社団法人・俳人協会」として文部大臣から許可されたことであります。

このことは申すまでもなく、私達のこの協会が、正式に社会的認知を得たことでその意義は極めて高いものが御座います。今後、この社会的信用の上に一層組織を強固にし、わが国俳句文芸の向上発

展に寄与したい所存で御座います。

第二は、「俳句資料センター」建設に本格的に取り組んだことであります。

このことは、定款第五条の事業内容に掲げました「俳句文芸に関する調査研究および資料の収集」に対応するもので御座いますが、俳句文芸に関するいろいろの著作、文献を収集、管理し、会員各位の便役に供すると同時に、俳句という貴重な文学遺産を永く後世に伝えようという趣旨で御座います。

これにつきましては、各顧問から貴重な御意見もお寄せ頂きましたので、早速特別委員会を設け、関係方面と接衝しながら具体的な規模構想、資金、運営方式および土地の確保等に第一歩を踏み出したのであります。

何分にも巨額の経費を伴う大事業でありますので一朝にしては成りませんが、四十七年度中には一応の目安がつくところまで漕ぎつけたいと折角努力いたしておるところで御座います。

第三といたしまして、協会としての財政的基盤の確立と只今申し上げました「資料センター」建設に伴うための資金の一助として特別基金運動を実施いたしました。

「資料センター」の建設にはおそらく数億円という多額の経費を要することと存じます。そのためには国家的援助および一般国民の理解と協力を得なければならぬのであります。それはそれとして、先ずわれわれ自身が身をもって熱意を示す必要があろうということで、会員の皆様方に特別にお願い申し上げた次第であります。幸い各位の積極的御協力を賜わり、お手許にお配り申し上げました別紙資料のとおり、総員五八二名、特別に御協力いただいた結社五八、その総額は約八百三十万円と相成りました。

なお、ここでちょっと申し添えておきますが、これらの特別募金は、主として昭和四十五年末現在の会員各位にお願い致したもので昭和四十六年に新たに会員になられた方については次の機会にお願いしようということに致しましたので御了承のほどお願い致します。尤も中には進んで御協力いただいた新会員の方々もいらつしやることを併せて御報告いたしますと同時に、会員各位に対し、この席をかり心から御礼申上げる次第で御座います。

第四といたしましては、かねて強い要望のありました新会員の増強でありまし

た。

協会の基礎もいよいよ固まり、社団法人として大事業を行なうためには、文字通り超結社的に優秀な俳句作家を会員としてお迎えし、その御協力を得たいためでありました。

この具体的措置につきましては、特に「組織強化委員会」を設け、あらゆる見地から総会判断いたし、各結社別に特定員数を算出し具体的人選はすべて主宰者に御一任したので御座います。

その結果三五二名の新会員をお迎えすることになりました。これにより、十二月末現在の会員数は一、一八二名となりました。

次に、第五といたしましては、中央・地方の連系を密にし、併せて会員相互の親睦を図るため、各地における懇親吟行会を活発に開催いたしました。すなわち

九月十五日	関西地区(奈良・生駒)
十月二十四日	東京(武蔵野)
十月三十一日	長崎
十一月三日	長野
十一月二十一日	金沢

の五ヶ所で催し、各地とも極めて盛會裡に終了いたしましたことは御同慶に堪えません。

これ偏に地元各会員の積極的な御協力とその熱意のあらわれで、深く敬意を表する次第であります。

以上が主として十周年記念事業関係の

概要で御座います。

次に、その他の恒例事実についての御報告を申し上げます。

(一) その他の事業

恒例の第十回全国俳句大会は五月二十二日東京において、また、関西俳句大会は十一月十四日、大阪においてそれぞれ開催いたしました。

また、第二回俳句講座を七月九日から八月二十七日に亘って開講いたしました。

そして、第二回俳句色紙短冊展は、十一月五日から十日まで、東京・京王百貨店において開催いたしました。

いずれも予期以上の成果を収めると共に、俳句を広く一般国民に認識せしめた効果も大きかったものと思料いたしております。

なお、これらの詳細につきましてはその都度協会報をもってお知らせいたして居る通りで御座います。

(二) 俳人協会賞、芸術院賞等について

昭和四十六年度すなわち第十一回俳人協会賞につきましては、会員各位から多くの御推選を頂き、その資料に基づき十二月十一日選挙の結果、満場一致で句集「朝」の著者岡本眸さんに決定いたしました。本日、この総会に引き続き授賞式を行なうことに相成っております。

なお、今年度は、協会にとっても嬉しいことが多く、俳句の隆昌を目のあたりにする思いが致したのであります。

先ず第一に、顧問の富安風生先生には

栄ある日本芸術院賞を受賞されました。

これは俳壇にとつては水原会長に続く二人目のことでまことにおめでたい限りで御座います。

協会といたしましては、十月二十九日若葉社と共催で祝賀会を催しました。

また、野沢節子さんには読売文学賞を受賞され、一方、各府県においても多くの会員が当該都県の文化章などを受賞され御同慶の至りに存じます。

四 会員動静

次に、昭和四十六年度中における会員の動静を申し上げますが、おめでたい事が多くありました反面、次の十一人の方が不幸にも他界なされました。

菅裡馬氏（同人）石山秋月氏（かびれ）滝けん輔氏（鹿火屋）河原白朝氏（春燈）加来金鈴子氏（雪解）加畑吉男氏（若葉）長田深水氏（鹿火屋）遠藤素兄氏（若葉）大橋桜坡子氏（雨月）染谷十蒙氏（浜）渡辺鳴水氏（年輪）謹んで御冥福を祈り申し上げます。

四 事務所移転

協会の事務所は昭和四十五年九月以来、銀座の眼目ビル・松崎税理士事務所の一部をお借りしていたのでありますが、協会の法人化と共にいよいよ積極的

俳人協会編

現代俳句選集Ⅲ

A5版 豪華本 頒価二五〇〇円。〒荷造代一九〇円

（会員のご注文にかぎり二割引でお頒けいたします。残部僅少）

申込先 俳人協会

移転いたしました。

このことは、年度と致しましては昭和四十七年度に属すること御座います。協会の中核機関でありますので改めて御報告いたす次第で御座います。

なお、ついでに申し触れますが、この新事務所は僅か十坪程度のビルの一室では御座いますが、協会と致しましては充分以来十年にしてはじめて独立した事務所を設けたわけで、意義深いものと存じます。ここを起点とし、将来への飛躍を念じておる次第で御座います。

なお、これまで個人住宅などに分散格納しておりました図書雑誌類はすべてこの新事務所に搬入いたし整理の上展示いたしております。また、理事会はじめ幹事会およびその他の各種打合せなどすべてこの事務所で開催いたすこととなり事務能率の上からも得るところ大なるものがある御座います。

六 協会運営の状況

最後に、協会の運営状況について御報告申し上げます。

四十六年暮れ、社団法人として許可されましたからの運営は定款に定められている通り少なくとも毎月一回定例理事会を開催し、会長はじめ全理事が出席し、慎重審議の上提案を処理決定いたして居りますが、この年度の大半はまだ任意団体としての俳人協会でありました関係上、現在の理事会に相当する幹事会において措置いたして参りました。その開催回数は十三回で御座いました。

なお、その他の各種部会、分科会等は幹事会回数何倍かに当るほど開催いたし、微力ながらも鋭意努力して参つたつもりで御座います。

以上 昭和四十六年度の事業報告を終ります。何卒、決算報告書と御照会の上じゅぶん御審査いただき御承認くださいますようお願い申し上げます。

概要で御座います。

次に、その他の恒例事実についての御報告を申し上げます。

(一) その他の事業

恒例の第十回全国俳句大会は五月二十二日東京において、また、関西俳句大会は十一月十四日、大阪においてそれぞれ開催いたしました。

また、第二回俳句講座を七月九日から八月二十七日に亘って開講いたしました。

そして、第二回俳句色紙短冊展は、十一月五日から十日まで、東京・京王百貨店において開催いたしました。

いずれも予期以上の成果を収めると共に、俳句を広く一般国民に認識せしめた効果も大きかったものと思料いたしております。

なお、これらの詳細につきましてはその都度協会報をもってお知らせいたして居る通りで御座います。

(二) 俳人協会賞、芸術院賞等について

昭和四十六年度すなわち第十一回俳人協会賞につきましては、会員各位から多くの御推選を頂き、その資料に基づき十二月十一日選考の結果、満場一致で句集「朝」の著者岡本眸さんに決定いたしました。本日、この総会に引き続き授賞式を行なうことに相成っております。

なお、今年度は、協会にとっても嬉しいことが多く、俳句の隆昌を目のあたりにする思いが致したのであります。

先ず第一に、顧問の富安風生先生には

栄ある日本芸術院賞を受賞されました。

これは俳壇にとつては水原会長に続く二人目のことでまことにおめでたい限りで御座います。

協会といたしましては、十月二十九日若葉社と共催で祝賀会を催しました。

また、野沢節子さんには読売文学賞を受賞され、一方、各府県においても多くの会員が当該都県の文化章などを受賞され御同慶の至りに存じます。

四 会員動静

次に、昭和四十六年度中における会員の動静を申し上げますが、おめでたい事が多くありました反面、次の十一人の方が不幸にも他界なされました。

菅裡馬氏（同人）石山秋月氏（かびれ）滝けん輔氏（鹿火屋）河原白朝氏（春燈）加米金鈴子氏（雪解）加畑吉男氏（若葉）長田深水氏（鹿火屋）遠藤素兄氏（若葉）大橋桜坡子氏（雨月）染谷十蒙氏（浜）渡辺鳴水氏（年輪）謹んで御冥福を祈り申し上げます。

四 事務所移転

協会の事務所は昭和四十五年九月以来、銀座の眼目ビル・松崎税理士事務所の一部をお借りしていたのでありますが、協会の法人化と共にいよいよ積極的に事業を推進いたすため、且つ、御寄贈いただきました多くの句集、雑誌等を資料として整理保存いたします必要から、本年一月、東京都港区新橋の鳥森ビルに

俳人協会編

現代俳句選集Ⅲ

A5版 豪華本 頒価二五〇〇円。〒荷造代一九〇円
（会員のご注文にかぎり二割引でお頒けいたします。残部僅少）

申込先 俳人協会

移転いたしました。

このことは、年度と致しましては昭和四十七年度に属すること御座います。協会の中枢機関でありますので改めて御報告いたす次第で御座います。

なお、ついでに申し触れますが、この新事務所は僅か十坪程度のビルの一室では御座いますが、協会と致しましては充分以来十年にしてはじめて独立した事務所を設けたわけで、意義深いものと存じます。ここを起点とし、将来への飛躍を念じておる次第で御座います。

なお、これまで個人住宅などに分散格納しておりました図書雑誌類はすべてこの新事務所に搬入いたし整理の上展示いたしております。また、理事会ははじめ幹事会およびその他の各種打合せなどすべてこの事務所で開催いたすこととなり事務能率の上からも得るところ大なるものがある御座います。

六 協会運営の状況

最後に、協会の運営状況について御報告申し上げます。

四十六年暮れ、社団法人として許可されましたからの運営は定款に定められている通り少なくとも毎月一回定例理事会を開催し、会長はじめ全理事が出席し、慎重審議の上提案を処理決定いたして居りますが、この年度の大半はまだ任意団体としての俳人協会でありました関係上、現在の理事会に相当する幹事会において措置いたして参りました。その開催回数は十三回で御座いました。

なお、その他の各種部会、分科会等は幹事会回数の何倍かに当るほど開催いたし、微力ながらも鋭意努力して参つたつもりで御座います。

以上 昭和四十六年度の事業報告を終わります。何卒、決算報告書と御照会の上じゅぶん御審査いただき御承認くださいますようお願い申し上げます。

昭和四十七年度事業計画

昭和四十七年度の事業計画について御説明申し上げます。

本年度の事業計画につきましては、昨年暮れ、この協会が社団法人として発足されますや直ちに第一回の理事会を催し、新しい見地から、これまでの諸事業を再検討し、且つ社団法人としての高い次元における事業活動を実施しようということになりました。尤もその基本的な考え方は、社団法人となったからと申しまでも、この協会が根本的に生れ変わったわけではなく、それはこの協会が社会的な信用により高めることの措置であり、同時に協会の財産を法的に擁護しようということが大きな目的でありました。

すなわち、要は、あくまで俳句を愛し俳句に深い関心と理解を持つ者同志が、共に手をたずさえて、お互の交遊を深めそしてその信頼と調和によって俳句をとおし、わが国の文化の発展に寄与しようというものでありましてこのことを再確認し、それを基本理念として、いろいろの事業活動を行なうということに意見の一致をみたのであります。

従いまして、法的な組織機構を重なるため、俗にいう——角をたわめて牛を殺

す——というようなことがあつてはなりません。尤も、だからと申ししても、

俳人協会が公益法人として社会的信用を得ているということは、同時に社会的に責任ある機関でなければなりません。そこで、所謂、何もかもまあ主義であつてはいけないことは申すまでもありません。この間の息づかいにも似た微妙な運営については、俳人特有の柔軟な姿勢で運用していくことでありまして、これ亦意見の一致をみたところであります。

ところで、本年度事業計画につきましては、別途お手許にお届けいたしております収支予算書の事項別内訳では御了解いただけることと存じますが、これまで恒例的に実施いたして参りました諸事業、すなわち、東京における全国俳句大会をはじめ、関西および九州俳句大会の実施、懇親吟行会はは仙台、宇都宮、静岡その他一ヶ所を計画いたしております。

また、色紙短冊展、俳句講座もほぼ昨年の例に従い実施すべく計画を進めて居ります。

なお、今年度の新規事項として特に御説明いたしたいことは、調査および資料収集に関する事業を新しく計画いたして

居ることで御座います。これは事業と申しましても何ら収入を伴なわないことなので御座いますが、いやしくも社団法人とし、俳壇唯一の公的機関の使命を果すためにはこのような基本的な問題にも対処しなければならぬと存ずるのであります。この調査および資料収集の中には、次に述べます「俳句資料センター」の運営管理をはじめ、内容的にもいかにして充実したものにするかということ、更には俳句文芸に関する著作権等の問題についても十分調査し、その社会的地位を向上せしめたいというところに御座います。

最後に「俳句資料センター」のことで御座いますが、このことにつきましては先きに昨年度の事業報告でも申し述べたところで御座いますが、既に「俳句資料センター」建設委員会を設け着々と準備を進めておりますが、今年は特に政界財界方面の俳句を愛する人士の御協力を得た強力な体制とし、また、国会および関係官庁の援助のもと一日も早く実施の方向に取り運びたいものと固い決意を持つて居るので御座います。

なお、このことにつきましては、先きの特別基金募集をお願いしたあとに協会員となられた方達、および何らかの御事情でまだ御応募いただいていない旧会員の方達にも今一度お願い申し上げますと存じますのでどうか御協力下さいますよう切にお願い申し上げます。

簡単に御座いますが以上で昭和四十七年度事業計画の概要を御説明申し上げます。じゅうぶん御審議いただき御決定下さいますようお願い申し上げます。

(秋元理事長)

社団法人俳人協会役員(新)

理事会長	水原 豊 (秋桜子)
副会長	大野 正 (林火)
理事長	秋元不二男 (不死男)
常務理事	皆吉太郎 (爽雨)
角川 源義	
周藤三三男 (岸風三樓)	
草間 時彦	
有働 亨	
福田 幹雄 (蓼汀)	
香西 照雄	
松崎 敏雄 (鉄之介)	
石川 一雄 (桂郎)	
沢木 欣一	
遠藤 後一 (梧逸)	
五所平右衛門 (平之助)	
監事	